



# 再起が危惧される 中村勘三郎の病気 「特発性両側性感音難聴」

歌舞伎役者・中村勘三郎（55歳）が、「極度の疲労と尋常ではない耳鳴り」で5月頃までの休養を発表した。

「昨年の秋ぐらいかな、勘三郎さんに会ったとき、『指が痺れたり微熱が続いたりするんだよ。これが噂の更年期障害かな』なんて笑っていたんです。その後、体調がさらに悪化したようですね」（勘三郎の知人）

医師の診断によると勘三郎の病名は「特発性両側性感音難聴」。なんとも聞きなれない病気である。

耳鼻咽喉科の名医として知られている慶友銀座クリニック院長・大場俊彦医師は、こう説明する。

「原因不明の難聴が両耳で起きるわけです。この病気は発作を繰り返し、徐々に聴力が下がっていきます。」

原因は免疫異常や遺伝的な可能性も指摘されていますが、直接的な原因は医学的には解明されていません。

あくまで予想ですが、勘三郎さんは聴力が徐々に落ち、それに伴う耳鳴りもひどくなつて、休むことにしたのかもかもしれません」

この病気は若者と高齢者に二つのピークをもち、患者は男性だと100万人に6人程度で、特殊な難病だ。果たして完治はするのか。

「治療は月単位の時間がかかりますし、現代医学では、耳の細胞が一度悪くなってしまうと、聴力の完治はまず見込まれませんし、耳鳴りを伴うことが多いと思います」（大場医師）

歌舞伎の舞台では、役者は、三味線や語りに合わせて、動きやセリフのタイミ

ングを計る必要がある。舞台上に復帰するのに支障が出る可能性はあるのか？

「どこで音がしているとか、空間認識の能力が少し落ちるかもしれません。難聴になると、コミュニケーションの面で障害が起きますが、ただベテランの役者なら、芸でカバーできると思います」（大場医師）

関係者によると、入院中の勘三郎は今月末には退院し、別荘や温泉地で療養する予定だという。

「本人は入院中に外食に出かけたり、いたって元気ですが、日によっては耳鳴りがひどく、脱力感があるそうです。おそらく復帰は5月ではなく、夏ぐらいになるでしょうね」（前出・知人）  
相手は手ごわい難病。ゆっくり休んでほしい。



難病と闘う勘三郎